



子ども会で広げよう 地域の絆

柏谷子ども会
会長 内田ひとみ

柏谷子ども会では現在小学校一年生から六年生まで会員数計64人で活動しています。主な活動としては、区内のさまざまなお祭りにしゃぎりで参加したり、7月には古くから伝わる“あたごさん子ども相撲”を奉納することで、子どもたちの健康を祈願しています。また10月の日枝神社例大祭では子どもたちが作ったお神輿で区内を練り歩いたり、三・四年生によるソーラン節を披露したりもしています。

1月にはどんど焼きがあります。区民の方の中にも楽しみにしている人が多い行事の一つです。どんど焼きはお飾りを焼き上げることで炎と共に歳神様をお見送りする意味があるそうです。毎年おんびの材料となるお飾りは区民の皆様からご協力いただいています。おかげで今年も大きなおんびをつくることができました。また、前日に華の話さんと一緒に作ったお団子を焼いて食べることで、1年を健康に過ごせるそうです。子ども会活動を行うことで、行事を通じて年齢を超えた縦の交流ができ、近所の顔見知りが増えます。登下校時に声をかけて頂くこともあります。こういったところから地域防犯に繋がるのではないかとも思います。また子供同士も、他学年とのつながりができ、実際に私の息子も子ども会活動終了後に年上のお兄さんと公園でそのまま遊んでもらったこともありました。中学に上がったときには顔見知りの先輩がいてとても安心していました。逆に下の息子は、自分より下の学年の子が困っていたら率先して声をかける姿が見られました。学校でもある光景かもしれませんが、同じ地区の子となるとより深い絆になる気がします。

どんど焼きのおんび

以前ドッジボール練習の時に外から眺めている子が



ドッジボール大会

いました。親の仕事の都合で子ども会に入れないとの事でした。子ども会役員の大半は仕事をしています。だからこそ、みんなでフォローし合ってできる範囲でやっていけばいいのです。私も仕事をしながら今年1年会長を務めさせていただきました。自分の子ども以外の学年の子どもたちにも顔見知りが増え、道で会うと小さなかわいい一年生が笑顔で手を振ってくれます。私の息子達にはもうないあの笑顔には本当に癒されます。逆に先日行った歓迎会では、前に並んだ六年生を見て、子どもたちの成長に感慨深いものがありました。役員を務め上げる上で大変なことは沢山ありましたが、それ以上に得るものは大きく、本当に充実した一年を送ることができました。



あたごさん(白雲庵)での子ども相撲

子ども会に参加すると、子どもだけではなく親もまたいい経験が沢山できます。今の時代習い事をしている子どもたちも多いです。でも無理させることなく参加できる行事だけ参加していただければ大丈夫です。今迷われているそのあなた！！ぜひ子ども会に入会しませんか？子ども会は楽しいですよ！

子ども会に入会しませんか？子ども会は楽しいですよ！



日枝神社例大祭でのしゃぎり演奏



瑞穂のくにの ものがたり

日枝神社宮司 泉明きみずほ

中学時代、男性の国語の先生から授業中に「女性を格付けする言葉」なるものを教えてもらった。失礼しちゃうわ、と言いたいところだが、時世も含めた備忘録として記しておく。

[佳人][麗人][シャン][美人][並上][並々][並下]
[ブス][擬態][醜悪][ゲロ][失神]

口に出して言ってみるとリズムがよいので覚えてしまっただが、途中、牛井の注文を取っているみたいになってるし、最後なんて及ぼす影響にまで言及されている。実に非礼極まりないが、モテない男子の戯言として許そう。しかし、この先生はよいことも教えてくれた。美しく生きている女性を褒めるときは美人というよりも佳人と讃えた方がその人の格が上がる、ということだ。ついでに申し上げれば、自らのお金で他の人にご飯を食べさせることを「おごる」というのは下品である、ということもこの先生が教えてくれた。おごるは、おごり高ぶること(相手を見下して高慢な態度をとること)に通ずるから、「御馳走する」に言い換えましょう、という事だった。

ところで、女性の美しさの基準は多岐に渡るが、私が挙げるのであれば「花や樹木に詳しい人」であろうか。道を歩けば、路傍に咲く花で四季を愛おしみ、遊山に出かけてはご当地を彩る街路樹に心を寄せる。花の香りを嗅ぐ所作さえも美しいような気がする。ちなみに、花より団子を旨とする私は、草花木の魅力を感じても、その種類はあまり

よく知らない。自信をもって正解できそうなのは、花はひまわり、バラ、チューリップ。木は桜と、実がなっている間の柿くらいか。つわものの中には木肌や枝ぶりを見て何の木かわかる人もいるから驚く。私からみれば、葉や花が落ちればぜんぶ同じ茶色の枯れ木だ。

さて、私の幼馴染のいくちゃんも、子どものころから草花に詳しい人で、実に聡明な佳人である。母上様の影響もあったと思うが、小学校の下校時の道草の折に、たくさんの草花を教えてくださいました。可憐な野イチゴをつまみ食いし、学校花壇のサルビアの蜜を吸い、オシロイ花の種をつぶして出た白い粉を顔に塗り付けて美容法に励んだ。(ひとの)田んぼに咲くレンゲをつんで花冠を作り、四葉のクローバーを探しては、若々しく萌えだした自然の息吹を感じたものだ。

今の子どもたちはどうなのだろう。何しろ毎日忙しそう。学校においては、プログラミング教育だの、グローバル教育だの、学ぶ課題が増えているし、学校が終わってからも塾やお稽古などがある、多忙を極めていると思われる。家路を急ぐ理由が、4時から始まるテレビアニメだった昭和の子ども(わたし)とは大違いだ。

でも、だからこそ、学校の登下校の際の道すがらは大切な時間なのだろうな、と思う。子どもの頃に見た風景は、いつまでも心中の懐かしき残像となり、たとえ柏谷を離れたとしても、遠くから故郷に思いを馳せるきっかけとなり、いつかは帰ってきたいと願う場所になるのではないかと思うのである。



はてさて配
是いがら昨つ
非ま、れ年て
立す手、のい
ち。入神12ま
寄散れ社月。
っ歩のの
てなき規境
みどき模内
んで届とに
く近いたし新
だくたてにた
さいへ神は鳥
た社小鳥
たさい居
ときない建



柏谷の祭 八幡神社



お菓子をもらった子どもたち

達拝行の またよれ社る多あの幡的護でだ譽に柏
ににつ祝毎す。とつをで神くる旗信に神すわ田あり八
は訪て日年。いてく、社祀伊揚仰祀と。けの別り6幡
おれいに2 わ創む源のら豆げはらし源の命(祭神の社
葉たて祭月 れ建氏氏内れ地の、れて氏(ほは、
子子、典11 てさ子ののて方地源た全の(ほは、
を供参を日 いれに流一いにで氏八国守む